

第4回 鹿沼市子ども・子育て会議 議事録

日時：平成26年5月29日(木) 14時00分～16時00分

場所：市民情報センター 2階 子育て情報室A

出席者：鹿沼市子ども・子育て会議委員

学識経験を有する者：高柳恭子

子どもの保護者：荒井正行、宇賀神一晃、寺内建次

子ども・子育て支援に関する知識経験を有する者：

関口直美、堀川照子、田野井輝恵、柴崎君江、仲田美智子

関係団体から推薦を受けた者：大貫毅、佐藤誠、武田淳子

関係行政機関の職員：直井茂、岡部健

(欠席者：石川直美、阿久津真吾、細川朋子、茂呂英運、岩本雅子、佐藤昭男)

事務局 6名

議事内容

1. 開会

2. あいさつ

高柳恭子会長あいさつ

3. 議事

(1) ニーズ調査実施における自由意見の構成及び内容について(資料1)

(事務局より説明)

会 長：数の多いものだけでなく、少数の意見でも大事なものはあると思う。それぞれのご意見を伺いたい。年齢にかかわらず、共通の意見として悩み相談があったが、行政としてのアウトプットはしていても、受け手側には情報が入りにくい様子。気になったのは、幼稚園や保育園に相談員を置いてほしいという意見。行政の相談窓口があっても知らない人に相談はしづらいが、日ごろから顔を知っている人になら相談しやすいという心理的な理由が数字に表れているのではないかと感じた。

荒井委員：一時預かりの意見が一番多い。冠婚葬祭など、突発的に何かあったときに預けられるのは大切なので充実させるべき。少数意見で障害児のサポートや施設の充実、幼稚園・保育園から小学校まで長いスパンでのサポート体制をしっかりと作ることも重要。また、先生への研修等のサポートも必要になると考える。

宇賀神委員：現在、ネット等の検索システムが向上してきている中で、悩み相談の意見が多いのは矛盾しているなと感じた。相談できるところも、昔よりは間口は広がっているが、地域のつながりがいいのではないかと感じた。知識を持った近所のおじいちゃん・おばあちゃんのお話をもらう環境がない、隣近所の顔を知らないという状態が鹿沼市にはあるのではないかと感じた。保育だけでなく、防災の面からもいえる。保育事業での対応だけでなく、広くなくていいが、地域のネットワーク、隣近所の交流の場があれば、少しは改善するのではないかと感じた。

会長：すべての意見に対して施設を作ったり、人を配置して対応するときりがいい。すべての根本にあるのは隣近所の顔もわからなくなり、隣のおばあちゃんに30分頼めるような環境が今はないために、何かあったときに預けられるところが欲しいという意見が出てくるのかもしれない。預かってもいいと思っている人がいても、それを伝える場所もない。隣近所と仲良くなるチャンスがあるといい。

柴崎委員：一時預かりの中で、気になったのは、土・日・夜間の預かりの意見。自分の保育施設では土・日・夜間24時間対応を以前は行っていたが、利用数が減り、常に人を張り付けておくこともできないので、去年3月で24時間体制はやめた。朝7:00から夜20:00までで預かるとHPやパンフレットではうたっているが、今はだいたい18:30くらいまでの利用で、夜間の利用はない。ニーズ調査ではこれだけの意見が出ているが、利用は少ないので、自分でなんとかしているのかなと思った。

会長：何かあったときのために、どこかにあればいいな、ないと心配だなという数字なのかもしれない。あったらいいなとの意見ばかりではなく現状と両方が重要。希望があっても、実際に利用することは少ない。

仲田委員：ファミリーサポートについて、料金が安いという意見が多かった。若いお母さんに聞

くと、1対1で預けるのは不安なので、保育園等、預けたいときに預けられる集団の場があるといいという意見を聞く。地域にほっとさろん等高齢者が集まる老人施設があるので、そういった施設との提携できて、いつでもおじいちゃん・おばあちゃんがいて、ちょっとの時間に子どもを見てもらえるような場所があるといいという意見も聞く。子どもだけに目を向けなくて、広い目で見ていろいろな施設とのコラボレーションが出来れば、地域とつながれるのではないかと。

会長：わざわざ子どものために人を探すのではなく、目を広げて、地域の中に見たがっている人がいれば活用することは、これからの施策の中で生きてくる。

会長：小学生の意見として就学前と異なるのは、相談でも専門的な助言を必要としている様子。

武田委員：個別支援の発達に関する相談が気軽にできるといい。小学校に入学すると、心配なお子さんについては教育相談のシステムが出来ているが、今は、学校を通してではなく、保護者が直接、相談室に連絡する形で、他市町とは異なる。富屋の特別支援学校の学校公開があり、来年の就学予定のお子さんも数多く来ており、幼稚園・保育園でそういったお子さんを受け入れているのかと思った。

関口委員：すべての保育園・幼稚園に発達相談の先生と保健師さんが巡回し、のびのび発達相談を行っている。現場で困り感のあるお子さんについてアドバイスしてもらったり、場合によってはあおば園へつなぐシステムはある。ただし、現場でぜひつなげたいと思う子どもがいても、親が子どもの発達について認めないといけないので難しいところ。保育園等から小学校へ情報は伝わるようになっている。

会長：要望が多かった意見としては、他に保育園の入所状況がある。入るのが大変という意見がある。

関口委員：今年状況を見ると、鹿沼市でも待機児童が増えているのではないかと感じる。保育園を希望する人が増えている。

会長：保育料についても市町でかなり異なる。全員に対して無料は無理だが、第3子は無料など細かい要望があった。子どもが多い家庭には優遇してもいい。

関口委員：今でも、保育園では3歳未満は第3子は無料。

田野井委員：相談についてだが、事例として、学童に通っている保護者で、地域の主任児童委員、行政の家庭相談員に相談したがうまくいかず、最終的に学童に相談しに来たケースがある。鹿沼市では地域の民生委員や主任児童委員に相談する環境はできている。気軽に相談できる場所は人によって異なる。

会長：環境はできている、利用する人の気持ちの問題もある。1つの窓口ではなく、いろいろな立場や場所に複数の窓口があって利用者が選べるといいのかもしれない。

田野井委員：意見の中で学童保育の長期休暇・土日の預かり、高学年の預かりを希望する意見が8.87%あるが、実際には各学童で受入しているはず。長期休暇中のみについてはスポットとして受入している。

関口委員：日曜日は受入している学童はない。また、自分も学童を運営しているが、人数が多すぎて、スポットの対応もできない状態なので、そういった方々の意見ではないか。

会長：完全に希望が通っているとは限らないという数字なのか、学童の環境整備等内容的なものも含めての数字かもしれない。

(2) 子ども子育て支援事業計画骨子(案)について

(事務局から説明)

【第1・2章について】

会長：皆さんから出てきた課題がP9~10の部分に関連して、プラスされる内容となる。(1) 就学前児童については、資料1と照らしながら、保育所や幼稚園が何かしてあげられることについてのご意見、(2)小学生については学童や小学校、保護者の立場から付け加える課題があればご意見をお願いしたい。

堀川委員：資料1にもあったが、一時預かりの希望が多かった。現在、園で行っている預かり保育については常に利用するのは全園児の1割程度で、長期休みは全園児2割程度だが、長期休み中のみ幼稚園に下の子がいれば小学校3年生までで学童に登録していないお子さんについては預かっている。(10名程度) 仕事の都合で、朝早くから夜遅くまでを希望する方がいるが、どんどん受入時間が長くなって切りがない。受け入れる方

としては、体制が整ってないと難しい。また、幼稚園は3歳児から預かりだが、2歳児から預かってほしいとの要望がある。先生の資格の問題があるので、現状では受入していない。今後、受け入れ体制を取らないといけないのかと思う一方で、朝から夕方まで子どもを園に預けて、子どもと親が触れ合う時間があるのか疑問。保護者の悩みについては、子どもと長く過ごす担任の先生にはお母さんとたくさん話すように勧めている。幼稚園のお迎えで子どもが遊んでいるのを見ながら、お母さん同士が立ち話をするのも交流の場として見守っている。

関口委員：保育園は民間であれば、朝7:00~夜19:00まで長時間の預かりをしている。その上、土曜日は平常保育しており、休日保育でも保育は行っているの、週末まで子どもを預けて親と触れ合っているのかと感じる。一時預かりは、問い合わせはあるが、園に余裕がないとできない。料金も高めに設定しているので、断られる場合もある悩み相談について、担任の先生を頼りに相談していく保護者も多い。気軽に相談できない人もいるが、園の方針として親同士の関係が出来て助け合えるといいと思い、苦手なお母さんを巻き込んで保護者会で行事等をグループ単位で担当してもらったりする中で人間関係・友人関係を作る手助けをしている。子どもつながりだと、共通の悩みなどもあり、友達関係を作りやすいのではないかと。

会長：園でできる施設整備等器を広げることにはできるが切りがあるので、親同士で助け合えるといい。難しいが、コーディネイトをしてあげられる人がいないと親同士がつながっていけないと言えるかもしれない。

会長：地域でのイベントの充実も数字が高い。地域の環境については課題になることがあるのか。

荒井委員：自分の子どもが通う幼稚園は父母会の活動を積極的に行っている。できる方は積極的に行うので、そういった方はつながりができるが、働いている方はつながりが少なくなるので、相談窓口は必要。

寺内委員：保育園では決まっている行事しかない。

仲田委員：ファミリー・サポート・センターの母体である鹿沼ファミリー劇場等いくつかの子育

て支援の団体がネットワークを作り、20年前からヤンチャ祭りを行っていたが、ネットワークが解散したため、実行委員会形式で小さいお子さん向けにかぬまっこにこにこフェスタとして開催している。好評で参加者は多いが、運営をする担い手が少ないことが問題。自分の団体でも子供向けの企画を行っているが、土・日はスポー少年団で参加者が少なかったり、お金を払ってまで演劇を見る人も少なく苦戦しているが、にこにこフェスタのように無料でいつ行っても楽しいことをやっているようなイベントは来場者数が多いのでそういったものを求めているのかと思う。

会 長：今の話では小学生はスポーツ少年団が土・日は充実しているという事が。

武田委員：全体としてはスポーツ少年団の参加数は減少傾向

会 長：現在、小学生が楽しめるイベントはあるか。

田野井委員：ない。

武田委員：家庭でどのような子育てをするかの考え方による。習い事も多い。

会 長：ご家庭の考え方も多様化しているため、小学生に対して鹿沼市ができることを整理するのは難しい課題。

大貫委員：一時保育のニーズが高いが、アンケート結果を見ると自分のリフレッシュのための利用希望が多い。昔より子育ての負担感が大きいのではないかと思う。これをどう見ることがポイントで、施設整備だけではないが、こういった人たちのニーズを受けとめられるようにしないと、少子化の歯止めがかからないのではないか。

会 長：緊急時ばかりの一時預かりではなく、1時間でもリフレッシュできれば、また子育てを頑張れるという気持ちは理解できる。他市ではリフレッシュ券を出しているところもある。リフレッシュ目的にお金を使ってまで子どもを預けることは後ろめたい部分もあるが、例えば1年で3時間程度無料で預けられるのであれば、気持ちの部分でも変わる。施策を考える上では、他市町のリサーチも必要。

直井委員：一時預かりの中身の吟味・取捨選択は必要。

【第3～5章について】

①P12 次世代の計画と今回の計画の対照表について

大貫委員：そもそも、なぜ対照表は必要なのか。2つの計画の関係性を知りたい。

事務局：次世代育成支援対策後期行動計画は平成26年度までの計画になっている。さらに平成27年より子ども子育て支援事業に切り替わるということで、計画としての連続性もあるのでこのような形で掲載している。次世代については、今年の4月に国から、10年間の延長が正式に示された。今後、次世代の計画をどのように扱うのかは別途考える。子ども子育て支援計画との関連についてはまだ未定。

大貫委員：次世代の計画をまた別に作るのか。子ども・子育て支援計画に移行するイメージでいた。

事務局：当初はその予定だったが、今の計画を膨らませるのか、別に作るのかは今後の検討課題。

会長：それぞれの計画の発端は異なるであろうが、行政としてはすでに様々な事業をかなり行っており、それを改善・発展させたり、なくしてもいい物も出てくると思う。それにしても2つの計画はずいぶん関連しているように見える。

事務局：本計画は子育ての分野に絞って検討してもらっているが、次世代の計画は、地域の環境づくり等より広い計画となっているのが違い。

荒井委員：P12にある「任意記載事項」は計画に盛り込むのか。

事務局：国で示した案で、計画に盛り込む予定。

②P13 区域の設定について

会長：どのように区域を設定するかによって計画を考えていくもので、基本となる部分。

荒井委員：地域を割るときに山間部と都市部で異なると思うが、保育園の充足率も山間部と都市部が、一緒くたに記載されている。山間部と都市部でだいぶ開きがあつて、都市部では希望者も入れないという状況があるのではないかと思うので、そういったところを分けて記載した方がわかりやすいのではないか。

事務局：そういった考えもあつて、案(3)を提案させていただいた。

佐藤委員：ニーズ調査の結果を地域ごとに分けることは可能か。

事務局：ニーズ調査で地区を書いてもらっているが、鹿沼地区を錯誤して選んだ人もかなり多

いので、錯誤した回答を無視して地域がはっきりしている人だけの意見で進めていいのが不安がある。その錯誤回答をどう反映させるのか、どう使うのか事務局でも悩んでいるところ。それを市全体の計画であれば意見をそのまま反映できるので間違いはないが、この会議で意見をいただければそのようにしたい。

佐藤委員：地域の実情が把握できないこと、地域ごとにすると地域の事情に合わせて地域の工コが入ってしまうことやオペレーションが複雑になることを考えると、市全体を区域とすることでいいと思う。

会長：最初に二一ズ調査の地域の記載について書く欄があったが、想定外に錯誤が多かった。それは地域に対する概念が薄いからどう書いていいのかわからなかったのではないかと思う。

大貫委員：実際に居住している地域と預けている幼稚園・保育園がある地域がちがうことは多いのか。

関口委員：いろんな場所から通ってくる。小学校区の園児が多いが、保護者の就労等いろんな理由で他の地区から来ている園児もいる。親としては、車の時代なので、預けたいところに預ける。

会長：逆に地域はあまり関係ないとすると、区域の設定は難しい。市全体として区域を設定する意見が強いということでもいいか。

柴崎委員：自分の施設では保育園に入れなかった0~2歳の待機児童が入ってくる。地域性は一切ない。満3歳の3月を過ぎれば、居住している地域の幼稚園・保育園を案内している。3歳になればいずれそこを卒園して小学校に入るのであれば、その地域の施設に入ったほうが、子どもや保護者同士のつながりもできるしいいと思い、案内している。

武田委員：山間部と都市部で受けられる事業には差があると思う。本来、分けた方がいいが、データの錯誤により難しい。

堀川委員：幼稚園では幼稚園に近い小学校に就学する園児の割合が一番多い。小学校に入ってから、顔を知っているお友達がいる方がいいという考えの保護者も多い。

関口委員：幼稚園・保育園・認定こども園・小規模保育等が出来ていくとして、山間部には子ども

もが少ないから小規模保育というような計画を立てたととしても、保護者が何を選択するかはわからないので、市全体で考えた方がいいと思う。

会 長：鹿沼市も車社会でバスの便もいいわけではない。自家用車で自分の都合がいいところに車で行く。案の(3)を考慮しながら、(1)市全体の案でいくことで考えていいか。

関口委員：日光市のように広いのであれば、地域ごとに考えないといけないが、鹿沼市はそこまではない。

③P13・14 事業計画について

事 務 局：ここで示した見込み量はあくまで国の手引きで算出したものなので、現実離れた数字もある。他市の状況を見ると、見直しをする傾向も出てきていたり、国からの指示も出てきているので、次回、修正したものを示せると思う。

会 長：今回出た課題等をこれから計画に反省させていく。区域については、いろいろ問題はあるが、皆様の意見を基に進めていく。

事 務 局：この後、何か意見が出てきたら、別紙の意見書を提出していただきたい。

(3) 子ども・子育て関連3法に係る府省令の交付に伴う条例の制定について

事務職より説明

会 長：内容を確認してもらい、次回の会議で意見を出すようになる。

武田委員：パブリックコメントの周知方法について聞きたい。

事 務 局：広報・HPでパブリックコメントの募集について掲載し、各コミュニティセンターと子ども支援課、情報公開室でパブリックコメントを実施する。

会 長：次回会議については、7月29日(火)14:00とする。

閉 会